

No.63 contents

- 1 春季二科展開催
- 2 〈絵画〉総評・展示・受賞者のことば
- 3 〈絵画〉春季展選抜作品紹介
- 9 〈彫刻〉総評 100周年記念事業委員会 経過報告
- 10 〈彫刻〉春季展選抜作品紹介
- 12 第97回二科展 巡回展からの報告
- 13 第98回二科展日程表・巡回展日程
- 14 第35回定時会員総会
「南相馬の子どもたちと二科会交流展」活動報告
- 15 「織田廣喜先生を偲ぶ会」 訃報
- 16 「ベストセレクション美術2013」
「二科」アーカイブ 短信 事務局だより



2015年 二科展は
100回展
を迎えます

春季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
http://www.nika.or.jp/ TEL：03-3354-6646



1998年 伊庭新太郎 2002年 石附 進 1994年 月舘れい

春季二科展 開催



新緑のなか 東京都美術館

葉桜の緑も爽やかな上野・東京都美術館で、平成25年4月17日から23日まで春季二科展が開催されました。第97回二科展の受賞者と130号制作シード出品者を選抜し、瑞々しい意欲の導入を期待する会場となりました。選抜出品・絵画57点、彫刻6点、絵画部会員119点、彫刻部会員・会友34点、展示作品計216点。初日には入口の行列も長く伸び、昨年同様の約9000人の入場者が集計されました。

春季展は、戦後に間もなく再開された二科第31回展(1946年)に続き、1948年5月から開催されました。その後会場を諸所移しながら、秋の公募展とはまた異なる趣旨で開催されてきました。都美術館リニューアルを機に再び上野に会場を得て、春季二科展は今後更にどのように自律的に位置づけられるのか、個々考えられてゆくところでしよう。

2年後の100周年に向け、資料の収集や確認、整理の作業も進められています。「二科」の表紙で紹介する資料、今回は1990年代の春季展図録です。

総評
〈絵画〉

実験的創造の場として

川内 悟

今年の春季展は、第1室から大作シード作家や選抜者の力作を、すつきりと気持ち良く見られ、新鮮に感じたという感想が多かった。

春季展の狙いの一つが、選抜招待出品にあり、新人育成の目的で、次世代への期待を持たせる展示であったので、これ程の喜びはない。それは会場構成、展示の変化、特に展示委員会の努力の成果の表れである。

第1室から並んだ作品は、それなりに魅力を持ち、新鮮な迫力のあるものであった。だが折角の機会であるのに力一杯の仕事を示す事なく終わっていた作品もあったようで残念である。未完成ながら若い情熱をたぎらせてほしいものである。

それはそれとして、会場を一巡して何か物足りなさを感じたのは私一人ではあるまい。秋の本展の大作に比べ、春季展の号数の制限による迫力の欠如もあろうが、それだけではないように思えた。

画集の巻頭に「春季展は会員の造形上の実験的制作

発表の場とする」と明言している。

表現様式の確立したベテラン作家の仕事は目立ち、会場を引きしめてはいるものの、これから期待する作品の中に、秋の本展の単なる小型化と受け取られかねない作品もあったように思う。良く言えば良く纏まった手慣れた作品が多く、

落ち着いた会場の雰囲気はあったが、今一度初心に立ち返り、春季展を研究の場として捉え、確固たる意図を持った作品を、情性に流れる事なく、自分の思考を明確にし、自己への挑戦を激しく、簡単に変われるものではないが、そう願って精進していききたいものだ。自戒をこめて総評とする。



行列の入場者を迎えて

展示
〈絵画〉

春季展の展示について

香川 猛

今回は次代を担う新人奨励に重点を置いて展示した。第1室から第4室までにシード作家と第97回受賞者の作品を集めた。

会場は前回より一層新鮮味が感じられ、見学者も賑やかで、鑑賞者の中には一点食い入るように見ている人が目についた。審査

対象が一棟に集められたので、春季二科賞の投票がしやすかった、との会員の声も多かった。

前回の展示の反省も踏まえてそれを活かしていく姿勢が良い結果をもたらしているようで、全体的には作品も熱気に溢れていて、いい展示ができたようである。



会場 第1室

春季二科賞

須田美紀子

大作シードとして初めての130号。空間のバランスがいつもより難しく、「もうダメ」と感じた瞬間、ある言葉を思い出しました。それは「きっかけ」。

何事にも「きっかけ」が必要。しかしいつも思っていないと気付かないもの。道端に落ちている石コロ、雨上りの水たまり、何気なく生えている雑草も答えを導くヒントになる、というものでした。最後に答えを出すのは自分です。しかしどん底に落ちた時、何かの「きっかけ」がなければ這い上がることは難しい。

春季賞

辻富佐美

100号サイズを描きながらいる身にとって、130号は一回り大きく、新鮮な感触を受け、伸び伸びとした嬉しさがありません。出品作の「叫び」は、日常織りなす心模様を画面に描きとめたいと取り組んだ作品です。

春季賞

吉金幸枝

長い間、白にこだわりの線にこだわり、制作しています。納得のいく線が描けるまで、描いては消しての繰り返し。試行錯誤を繰り返しながらの制作、そんな制作時間が嫌いではありません。



春季二科賞 須田 美紀子 道しるべ(渦) F130

春季展選抜作品紹介



春季賞 吉金 幸枝 ある空間 F100



春季賞 辻 富佐美 叫び F130



北村 美佳 街 F100



山崎 美恵子 白いテーブル F80



櫻井 詩乃 融合 F130



山下 かじん 弦上ル F130



佐野 宣子 DANCE・コンテンポラリー F130



増田 裕成 紀元前ギリシア F100

ワクワクする意図的なドロイングをねらった。その先の新しい価値と譲らない美意識を、行為の果てに探りたい。

山下かじん

ダンスの根源に迫る豊かな踊りはシュールな絵を見ているようです。いつか画面にその感動を表現したいと思っています。

佐野宣子

古代の遺産という不完全な題材だからこそ沸き上がる自身の自由な発想、解釈を組み合わせて描いています。

増田裕成

風景を、三角と四角で単純化していった中に、新たな空間が生まれて来るのを待っています。

北村美佳

空間をどう処理するかが、いつも課題です。物にこだわりすぎて空間に奥深さが足りなかった。

山崎美恵子

F130号の制作は、はじめてのことでもあり、消化されずに、散々であった。好きだから続けられるが、結構つらいものですネ!!

櫻井詩乃

春季展選抜作品紹介



木村 民治 空の翼 F100



宮地 優子 炎 P80



根木 悟 Life/neco スタンドアップ F100



吉田 豊彦 コンポジション(A) F80



竹川 洋子 ナガレル F100



久我 佳恵 MIYABI—春の滝— F100

直線による画面構成と、土くさいイメージの彩色を心掛けた。次作では思いきり直線による枠から飛び出したい。

吉田豊彦

言葉で説明出来ない物が、キャンバスの中で徐々に現れ、自分の気持ちにぴったりと寄り添ってくれた時、幸福な気持ちになります。

竹川洋子

今までは心理的なイメージで描いていましたが、今回は自然の景色を抽象的に表現してみました。

久我佳恵

「空の翼」は今回で六回目。いつも描き過ぎてしまいが、今回は出来るだけ余計なものは省略したつもりです。

木村民治

作品の中に何らかの新しいチャレンジをして制作をしたいです。

宮地優子

引かれたその線に、滲み出た『身体性』で、まるで猫の跳躍のようなら、と思っただけです。

根木悟

低迷していた日本もようやく上向き、このまま上昇に向かうようにとの想いで、青、赤、黄で描く事にチャレンジしました。

田中ルリ子

龍飛崎に近い海と山の崖に挟まれた小さな漁村の特別な情景にひかれて、海側堤防からのスケッチによるものです。

廣木秀夫

NYの街角のストリートミュージシャン。その老人の現在・過去・そして未来？ソプラノSAXの高く、もの哀しい音と物語を感じてもらえたら...

浅井泰雄

人生、Uターンの年齢になり、その年に素直に、流行に流されず、見て下さる方に寄り添えるような絵を描ける自分になりたい。

織田清子

黒を多めに使ってみました。色にならないように気をつけましたが、少し重い感じがしました。

長嶺宏子

色と形より静かな時を感じてもらえればとの思いで描きました。

中静江

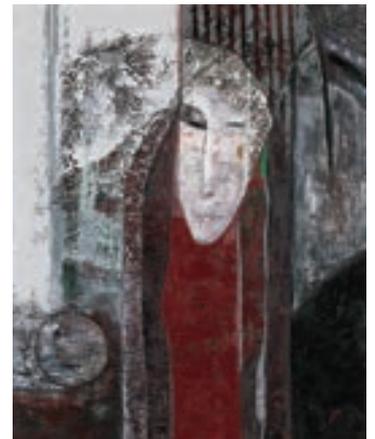
春季展選抜作品紹介



織田 清子 生る F130



長嶺 宏子 ティータイム F100



中 静江 時の刻 F100



田中 ルリ子 rising (上昇) F130



廣木 秀夫 北の船屋 F100



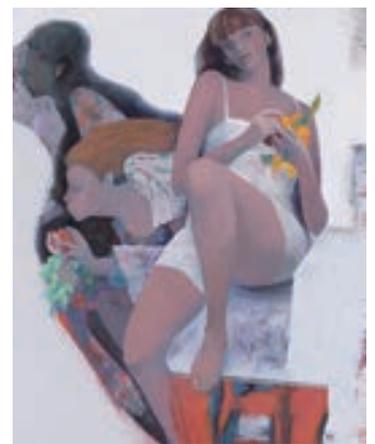
浅井 泰雄 街角で(ソプラノサクソ)ン F100



田中 昌美 切り取った風景 F100



岩下 百合 明日への刻 F100



渋谷 良子 豊饒 F100

都会の中にある直線と曲線にひかれています。でも最近、そこからはみでた線もあるのではと思うようになりました。

鈴木真木子

モノトーン主体の抑えた色調だからこそ表現できる世界で、艶やかに、そして豊かに響かせることができたら。

小川エリ

役目を終え朽ちていく物達はどこへ？ 大地？ 宇宙？ 面白い形を見せてくれてありがとう。

鳥谷啓子

言葉で表現するのが苦手なので画面に向かっているのに、絵の説明っていりますか？ 私にはこう見えるんです。

田中昌美

風景や室内の情景を心象化してイメージをふくらませて描いています。観る人に共感してもらえようように精進していきたい。

岩下百合

どうしても人体の「かたち」を整えることに時間を費やしてしまい、その先にある主張やテーマ性の表現に至っていないことに反省しきりの日々です。

渋谷良子

春季展選抜作品紹介



鈴木 真木子 界 F100



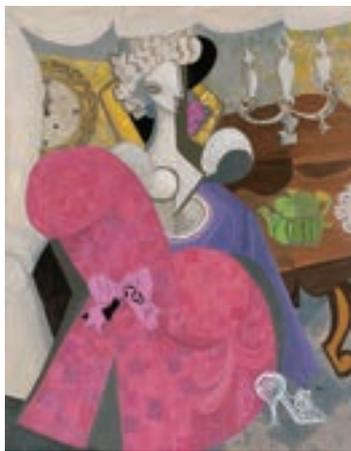
小川 エリ 響 F100



鳥谷 啓子 還る物 F100



橋本 和栄 フィールドの風'13 F100



野久保 由美子 夢の移ろい F100



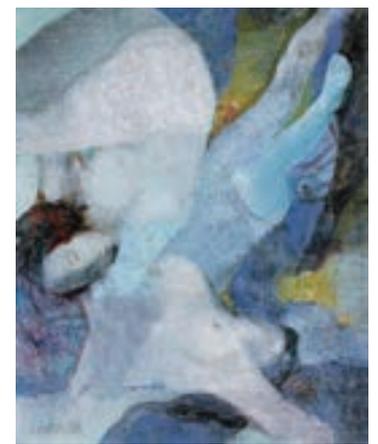
井上 練子 Twins-sister 1 F100



小島 義男 石の響き F100



石崎 琇子 組曲 F100



的場 五十彦 悠久の命 F100

砂漠に舞う砂、転がる石、たくさんの人がここを通りました。砂や石にも花が咲こうとしています。

小島義男

色の響き合いを大切にすることを心がけています。色を重ね、又重ねて、キャンバスと格闘していますが、無限の追求です。

石崎琇子

今回は人体を白く、重力無視で形を入れ、荒い中にも美色な絵肌をとの思いますが……。

的場五十彦

勇気や元気をくれるサッカー。そのパワーやスピード感を表現できればと思います。

橋本和栄

恐れのない春季展。私にはシンデレラが舞踏会に招かれた気持ち。パリ蚤の市を題材にキュビズム&平面化で表現した。

野久保由美子

人をテーマに、自分と「なにか」だけの関係から飛躍し、人との「つながり」を意識して、一歩踏み込んだ新しい切り口で描きました。

井上練子

春季展選抜作品紹介



山田 武雄 仮面カーニバル フラッグ F100



石本 香織 おでかけ F100



高見 愛 生地と生きる F100



高橋 徳子 ズッキーニ畑のある散歩道 F100



吾田 弘子 ミステリー F100



稲増 克彦 Cross Connection 2013
F100



野平 智広 その声が届く距離まで…
F130



田辺 美穂子 卓上 F100



君塚 彦四郎 廃屋 F100

自然の中で暮らしていると、植物が持つパワーを強く感じます。樹や草花の生命力を、楽しく表現したいと思い描いています。

高橋 徳子

絵を制作する目的は非日常の世界を作ること。これが描くエネルギーになっています。なぜか不思議な世界に惹かれるのです。

吾田 弘子

遠く美しく見えたはずの山の頂は、麓から見上げると、険しく厳しいことを思い知らされますが、私はこれからも足掻きながら登って行きたいと思っています。

稲増 克彦

レモン色の光と風、仮面の向こうの海風がフラッグをゆらす。刻を越えて今もなお。

山田 武雄

偶然にできる形の面白さと目に見えない空気感を画面に入れたいと思っています。

石本 香織

逆光に輝くわらわ農具をととても美しく感じ入り、その佇まいを表現しました。

高見 愛

春季展選抜作品紹介



小野 由紀子 孤独(ひとり)2 F100



鈴木 三喜男 寒椿 F50



田原 馨 森(再生) F100



世古 明子 共存 F80



佐々木 実 心象の日 F80



片岡 佐智子 人形 F80

君塚彦四郎
廃屋の姿を後世に残しておきたいという気持ちで表現しました。

田辺美穂子

クマが昼寝しているように見えました。線や色がリズムカルな画面を目指しています。

野平智広

キリンが遠くを眺める姿と、手の届かないものへの夢や憧れを抱く人間に共通点を感じ描いています。

田原馨

予期せぬ理由で成長半ばながら朽ちていく木々たち。それでも新しい命が確実に芽生えつつある。

鈴木三喜男

自分の暮らしている身近な風景の中に、自然と共に生きる姿が伝わる絵になればと願っている。

小野由紀子

面会に来た妻との間にほとんど会話はなく、帰っていく妻を見送るのはつらい老人の胸のうちを絵画にしてみた。

片岡佐智子
モールドは同じでも描く一体の人形と互いに引き合う瞬間の自己表現を追求したいと思います。

佐々木実

あの日の母と子の姿が目に焼き付きました。心の中に美の象徴を見、感情の高まりを追求したかった。

世古明子

サボテンを描き続けて15年。現在は生き物との関わりあいを主観的に制作している。

秋元克文

自然界の掬いのも生きている野性動物は、力強く美しい。それに魅せられて描きました。

岡部桃子

何時か、少しでも気に入った作品ができたらと、願いつつ描いていきたいと思っています。

合田紘露胡

琳派と水墨とを連結させて、自然との深い交感で、人それぞれの想いで心にとめて下さればと、油彩で日本庭園を表現してみました。

春季展選抜作品紹介



合田 紘露胡 想 F100



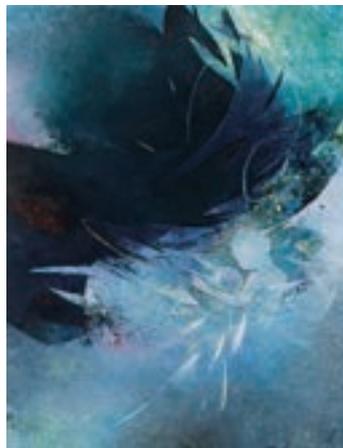
岡部 桃子 記憶 F80



秋元 克文 生きる F100



清水 尚子 時勢 F100



田中 とも恵 シンセカイ。 F80



さとうのりこ 長月 I F80



牟田 志津子 風の音 F80



田上 俊一 干し大根 F80



高橋 明美 村の入口 F100

道路を支えるコンクリートの堅さと、そこに住みついている鳥の柔らかさを表現したいと思っています。

牟田 志津子

日本画をイメージして、吊るされて間もない白い大根、歴史を感じさせる白壁を表現した。

田上 俊一

さわやかな色調と世界感を大切にしている。でも何か足りない…。さがし求めています。

高橋 明美

都心再開発が盛んです。新しいビル、地下街に地下鉄が走る。変わる街に環境、災害など意識して描いています。

清水 尚子

果てしない宇宙に憧れ、未知の星を空想しながら宇宙を旅する物語を描きました。

田中とも恵

この世界は、誰も孤独なものではなく、全てが繋がっているのだということを、表現したいと思って制作しました。

さとうのりこ

総評
彫刻

2013年春季二科展を終えて

菅原 二郎



彫刻展示会場

東京都美術館における春季二科展が4月17日午後2時から盛大に開催されました。午前搬入、陳列、そして午後2時からオープン、夕方5時から授賞式、懇親会。会期は一週間で、23日午後2時30分から搬出という非常にあわただしいスケジュールでした。

初日2時のオープン前には入口に長蛇の列ができ、思わぬ盛況にびつくりして

しまいました。当然各展示室も大勢の来館者で、作品をまともに見られる状態ではありませんでした。搬入、陳列にいられていた彫刻部の出品者の多くの方々は帰られており、残念ながらこの光景を眼にされていませんでした。

絵画部では若手作家たちを対象に会員たちによるギャラリートークが行われていました。展示も第1室

から推薦を受けて出品してきた若手一般、会友に明け渡され、会員たちの作品は後半の展示室にならべられていました。

今年の展示はデザイン部が不参加、その分彫刻部のスペースが少し広がりましたが、会員の不出品者が多く、総点数は40点でした。その上アングルの展示台に乗った小品が多く、展示委員たちは心配していました。が、危惧していたような展示にはならず収まり、胸をなでおろしました。

このように書いてくるとまるで彫刻部の春季展への関わりがあまり積極的でないように映りますが、今まではパートで開催されてきたせいで会員の多くが出品しない状態が当たり前になっていたという歴史的な背景がありました。しかし春季展会場に東京都美術館が使えるようになり、場所の問題が解決された今、我々彫刻部の会員も春季展に対する認識を新たにし、出品するのが自分たちの義務と考え、よりよい展覧会にしていかなければならない、と考えています。なお定款には「会員は春と秋二回の発表をする」と記されています。

100周年記念事業委員会 経過報告

2015年の二科100周年にむけ、
2件の記念事業企画を遂行中。

1、二科100周年展(仮称)

◆主催

東京都美術館、大阪市立美術館、石橋美術館(福岡)、産経新聞社、公益社団法人二科会

◆会期・会場

東京都美術館
2015年7月18日(土)
9月6日(日) 決定
大阪市立美術館
2015年9月12日(土)
11月1日(日) 予定
石橋美術館
2015年11月7日(土)
12月27日(日) 予定

◆展覧会構成

基本的に時系列で100年の足跡をたどる。ところどころ、エピソード(出来事、事件あるいは作家、作品に焦点をあて、各時期をふり返る。

2、第100回記念二科展

◆会期・会場

国立新美術館
2015年9月2日(水)
9月14日(日)
物故作家を中心とした特別展示室を設ける。

◆DVD、冊子からなる100年史の企画・編纂DVD―二科70年史(1985年二科70周年に刊行、上下巻)を電子化。70周年以降30年は、個々の記録とともに、各支部、会員の声や活動を動画も含めて記録、編集し、収録。冊子―物故、現在籍会員・会友名簿、関係作家、二科小史、その他(DVD、冊子の詳細については、会員・会友用第98回展書類に同封)

◆プレ記念事業

◆第98回展会場内に岡本太郎絵画作品パネル 太陽の塔写真パネル ポートレート等 展示予定

これら企画の詳細は、今後とも検討、討議を重ねていきます。協力よろしくお願ひします。

委員長 吉野毅

100年史についてのお願い
福島賜興

「二科の100年と現在」をテーマにDVDと冊子を組にした100年史を計画しています。DVDには現在の二科の有り様(二科における昔話や思い出、記録、二科に対する思いや希望なども含む)を各支部、個人、展覧会の様子等を通して記録した動画、静止画、音声等を編集して収録する予定です。広く会員・会友の参加を想定したものです。会員・会友各位の参加、協力なくしては成立しない企画ですので、ご理解の上ご協力をお願い致します。資料写真、記録動画は出来るだけSDカードにて二科会事務所の担当宛送付願ひします。第99回展終了時点で締め切りと致しますので、多くのご協力を期待します。なお編集につきまはては委員会一任とさせていただきますのでご了承下さい。また100年史には歴代会員と在籍会友名簿も記載します。つきましては確認の調査票を第98回展案内に同封の予定です。必ず返信にご協力下さい。

◆不明の点、ご質問につきましては担当の福島まで
電話029-1247-3400

春季展選抜作品紹介

作品制作のできる環境に感謝し、心のゆとりを有難う

長谷川 俊廣



長谷川 俊廣 前を見てごらん

切り取られた時間の中に様々な関わりと静思する我在り

中村 淳子



中村 淳子 静思の時

作品に生命感を与える為に、日々制作に励んでいます

本多 紀朗



本多 紀朗 堪

奈良国立博物館蔵鎌倉時代獅子像鍛彫金模刻

山中 洋明



山中 洋明 文殊獅子

犬との距離感是人それぞれ

佐々木 友二郎



佐々木 友二郎 SUNDAY DRESS

表現イメージを具現化することは、楽しいけれど難しい

藤岡 浩二



藤岡 浩二 春・寒い朝

第97回二科展 巡回展からの報告



名古屋展会場にて

■名古屋展
 平成24年10月2日
 ～10月14日
 愛知県美術館ギャラリー
 (愛知芸術文化センター)

初日9時半より江崎委員の司会で始まり、委員長永井忠雄のあいさつでスタートし、テープカットは中部日本新聞社事業局長山口宏昭氏、CBCクラブ事務局長石崎裕司氏と私永井そして初入選の加藤明日香さんの4名で行いました。

夜は懇親パーティーを盛会に催し、恒例の酒樽割りも拍手のうちに終わりました。会期中にはギャラリートークもあり、入場者数も1万人を超す盛況で、私たちも大変喜んでおります。二科名古屋会の皆様と二科展を応援して下さいるファンの皆様に心から感謝しております。

名古屋支部長 永井忠雄



大阪展 チラシ 会場

■大阪展
 平成24年10月30日
 ～11月11日
 大阪市立美術館

絵画197点、彫刻22点、デザイン・写真を含む合計607点の展示。
 会期中の入場者は1万5093名と例年とほぼ変わらなかった。会員をはじめ各部の出品者と新聞社のご協力に感謝いたします。

併催されていることも二科の絵には自由な発想、面白い表現が溢れています。

関西から個性ある出品者の作品が増えることはもちろん、いかにして入場者を動員できるかを具体的に考えていくことが大事かと思えます。

大阪支部長 尾崎功

■京都展
 平成24年11月29日
 ～12月9日
 京都市美術館

会期は10日間で、前年より2日多かったのだが、入場者数はほぼ同じで595



京都展会場

3人。そのうち有料は300人程度増えたが、要因は今年から70歳以上も有料になったことだとみられる。喜んでいいのか微妙である。京都展は展示スペースが狭く、3年前から1室増えたものの、絵画、彫刻、デザイン、写真合わせて350点と寂しさは否めない。開催中のイベントは、例年どおりギャラリートーク2回に加え、ミニコンサートとしてバイオリンデュオを行い、なかなか好評だった。これから100回展に向

け、限られたスペースで何が出来るか、検討することになるが、織田廣喜というスーパースター亡き後、自作をどのように磨くか、一人一人が問われるのだろう。

京都支部長 中原史雄

■広島展
 平成25年1月8日
 ～1月13日
 広島県立美術館

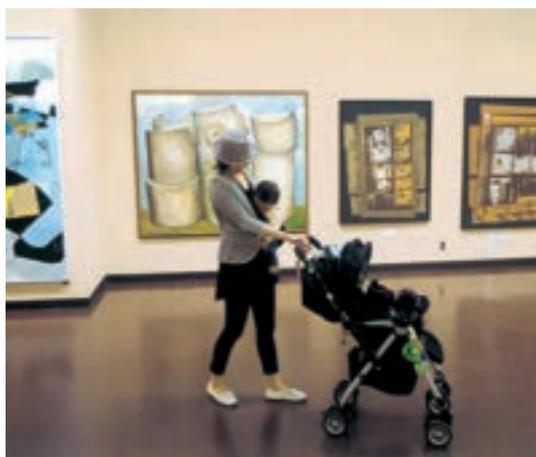
例年、新春の1月開催が恒例となっている広島展。広島支部同人は、巡回展が始まらないと正月を迎えられない。昭和31年より57回を数え、以来、絵画、彫刻、デザイン、写真の4部門の協力が伝統となっている。最近では地元出品者が多くなり(特に写真部は全国24部門で246人の大所帯。会場構成、立付作業等、連携調整がオープンまでの一大イベントとなっている。今年には田中理事長をお迎えして広島県立美術館でスタートした。地方ではなかなか本部の会員との交流の機会が少なく、直接作品批評を頂く良い機会となり、支部同人にとって大きな励みとなりました。又、来館者も7500人余りを数える



鹿児島展 ギャラリートーク



広島展 テープカット



福岡展会場

盛況であった。

二科100

回展もあと3

年。地元の皆

様に愛され、

温かい支援を

頂く中で、先

輩諸氏が綿々

と築き上げた

広島展をさら

に盛り上げる

べく、次回へ

の決意を新た

にした。

広島支部長

高藤博行

■鹿児島展

平成25年3月6日

～3月17日

鹿児島県歴史資料センター

黎明館

第97回二科巡回鹿児島展

は、例年と略同数の400

0人余の入場者で賑わいま

した。

今年には展示壁面のレイア

ウトを一新して広く見やす

い会場になり、入場者から

も「多彩なジャンルの具象

抽象、見応えのある二科を

楽しめた」と多くの声を聞

くことが出来ました。

会期中のイベントとして

会員による土・日のギャラ

リートーク、そして今回は

支部同人全員による自作の

ギャラリートークを試みま

した。同人の意識の高揚と

入場者との親近感を深める

■福岡展

平成25年4月16日

～4月21日

福岡市美術館

会場構成は馬場評議員と田

牧会友により、今までにな

い見やすくすっきりした会

場となりました。

前夜祭と初日には、松室

重親常務理事、森井禎紹常

任理事に御来場いただき、

ギャラリートークでは、豊

かな経験から紡ぎだされる

お話に聞き入りました。

最終日には二科賞の吉田

さんをはじめ出品者による

ギャラリートークもおこな

われ、熱心に聞き入る鑑賞

第98回二科展 日程表

8月

22日(木) 搬入業者・個人

23日(金) 搬入(個人) 16時まで

24日(土) ～27日(火) 審査

27日(火) ～28日(水)

入落通知発送

30日(金) ～31日(土)

業者選外作品搬出

業者選外作品搬出

9月

1日(日) 選外作品搬出[彫刻]

2日(月) ～3日(火)

個人選外作品搬出

3日(火) 展示日

4日(水) 展覧会初日

テープカット10時

ギャラリートーク

[絵画] 11時

作品講評会[絵画] 12時

授賞式 15時

懇親会 18時

8日(日) ギャラリートーク

[絵画] 11時

[彫刻] 13時

10日(火) 休館日

13日(金) ミニコンサート (Aura)

18時

14日(土) 二科展鑑賞会

15時～16時

16日(月) 展覧会最終日

14時まで 敬老の日

搬出[彫刻]

17日(火) 搬出[絵画・彫刻]

18日(水) 搬出[絵画]

第98回二科展 巡回展日程

◆大阪展

大阪市立美術館

平成25年10月30日(水)

～11月10日(日)

◆金沢展

金沢21世紀美術館

平成25年11月15日(金)

～11月24日(日)

◆京都展

京都市美術館

平成25年11月28日(木)

～12月8日(日)

◆名古屋展

愛知県美術館ギャラリー

平成25年12月18日(水)

～12月23日(月)

◆広島展

広島県立美術館

平成26年1月7日(火)

～1月12日(日)

◆鹿児島展

鹿児島県歴史資料センター

黎明館

平成26年3月5日(水)

～3月16日(日)

◆福岡展

福岡市美術館

平成26年3月25日(火)

～3月30日(日)

第35回 定時会員総会

平成二十五年五月十九日午後一時より、第三十五回二科会定時会員総会が国立新美術館講堂に於て開催された。出席会員百五十名（うち委任状出席者六十名）により総会成立が塙事務局長より宣せられた。定款十七条に基づき、生方常務理事を議長に選任し、以下の議案について審議を行った。

第一号議案

平成二十四年度事業報告
議長より、議事資料に基づき別紙資料を参考に事業の実施状況について、実施項目ごとに詳細な説明があり、了承された。

第二号議案

平成二十四年度決算承認の件（財務諸表ならびに収支計算書、監査結果報告）
川内常務理事より、議事資料に基づき、別紙資料を参考に、平成二十四年度公益社団法人二科会の貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、収支計算書について詳細な説明があり、木

戸監事から監査報告が行われ、当案件は可決された。

第三号議案

平成二十五年年度事業計画報告の件
議長より、議事資料に基づき、二十五年年度事業計画の説明が行われ、吉野常務理事より100周年企画の、川内常務理事より義援活動の報告があり、了承された。

第四号議案

平成二十五年年度正味財産増減計算書報告の件
川内常務理事より、議事資料に基づき、平成二十五年年度正味財産増減計算書の説明が行われ、了承された。

第五号議案

平成二十五年春季二科展実施報告の件
川内常務理事より、二十五年春季展について議事資料に基づき、詳細な説明が行われ、了承された。

以上により、議長が議事の終了を宣し、閉会となった。

「南相馬の子どもたちと二科会交流展」活動報告

中島 敏明



未だ手つかずの10km圏内

震災、津波、原発事故の三重苦と戦っている福島県南相馬市に在る銘醸館二番蔵ギャラリーにおいて「南相馬の子どもたちと二科会交流展」を5月17日から26日まで開催した。

これは、第96回、第97回二科展に特別展示された被災地児童の作品を、父母等から「地元でも見たい」との要望があり、地元観光協会と二科会義援担当により企画されたもので、子供たちの作品に加え、春季二科展の会員作品11点も合わせて展示された。

初日は来館者を前に川内常務理事の進行により、田中理事長の挨拶で始まり、生方、松室両常務理事や登坂理事が、子供たちの制作過程や絵の魅力について語り、夕方からの交流会では、地元市議、教育長、教育委員の方々、20名余や、二科会より理事長他10名が出席して、復興状況やアート力などについて語り

合った。ここに地元参加者からの二科会に宛てたお便りを紹介します。

「この度は地元での交流展を企画、開催していただき、ありがとうございます。震災から二年が過ぎ、五感で感じる



交流展会場にて



慰霊碑に献花を捧げる

ことのできない放射能は、身心に深く深く浸み込んでしまいました。皆、心にとめて、何げない顔で生活しているのです。そんな状況の中で子供たちの力強い絵は夢と希望、安らぎをもたらしてくれました。

二科会の皆様方がこの南相馬に大きな愛で温かく寄り添ってくださる、この事が本当に嬉しくありがたいです。（略）

あれから2年3ヵ月、未だ終わつた訳ではないあの震災、放射能という見えない恐怖を抱えて日々奮えて生きている人達が、大勢いることを、我々は決して忘れてはいけません。

故「二科会名誉理事長 織田廣喜先生を 偲ぶ会」

平成25年4月19日の午後、葉桜が影を落とす上野精養軒で「織田廣喜先生を偲ぶ会」が催された。

会場には、会員、会友と来賓の方々が並び、先生の遺影の前に設えられた献花台に、次々と花を供え、ご冥福を祈った。

山中理事と埴事務局長が司会を務め、田中良理事長の開会の辞で始まり、来賓のご挨拶としてご遺族の織田きじ男様の謝辞、次いで同席の来賓の方々が紹介された。

献杯の儀に続いて、石附進名誉理事と彫刻の吉野毅常務理事が交々立って、織田先生の遺徳を偲び、二



理事長挨拶

絶筆



科会に対する貢献や逸話を贈る言葉として述べられた。又、会食の中で、先生と親しかった数人が、旅行の時の話や、アトリエでの会話等、先生の心と人柄を偲ぶよい話をして下さった。続いてビデオ放映で、先生のソ連時代の若い頃の姿や、制作風景を懐かしく拝見した。時間が過ぎて、少し心残りであったが、菅原二郎常務理事の閉会の辞で終了。一人孤高の画家として俗に染まず、文字通り二科会と共に生き、生涯女性を描き続けた「画家織田廣喜」の名は、その作品と共に、二科会の誇りとして、永く後世に語り継がれることであらう。

松室重親

訃報

会員 大野 哲司氏



二〇一三年三月二十六日逝去 77歳
ご遺族 大野直樹(長男)
千九六〇―一四六四
福島県伊達郡川俣町宮ノ脇一七

一九七二年 第57回二科展初入選
一九八一年 第66回二科展特選
一九八七年 二科会会友推挙
一九九九年 第84回二科会会友賞
二〇〇二年 二科会会員推挙
二科会福島支部、支部長

大野哲司先生を悼む

須田美紀子

小さな歌舞伎舞台の様な建物のある古い神社の側に先生の家があります。敷地入口には真赤な旧式の郵便ポスト、庭には馬繋ぎ石が置いてあり、家の中には彫刻や絵画が上品に飾られています。アトリエには、もちろん沢山のタバコの吸い殻が。時々蔵の中からご家族に内緒で骨董品を持ち出しては筆立にしておられました。ですが、すぐに絵具まみれ。「もったいない」と申しますと大野先生は笑いながら「ハイあげる」とその絵具まみれの筆立を私に。よく見ると絵具の下には葡萄の模様。とても素敵なお品でした。

3月24日、先生より体調不良との電話。それが最後になってしまおうとは。チンチン電車を作品にしたいと話していた先生、悲しいです。本当にお世話になりました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

第97回展出品 希望の部屋 P150



訃報

会員 天野 赫二郎氏



二〇一三年五月二日逝去 72歳
ご遺族 天野健幸(長男)
千四二七―一〇三六
静岡県島田市三ツ合町二七四―一〇

一九八五年 第70回二科展 70周年記念賞
一九八八年 二科会会友推挙
一九九二年 第76回二科展会友賞
二〇〇五年 二科会会員推挙
前二科会静岡支部、支部長

天野赫二郎先生を悼む

今村幸子

支部の方から連絡が入り慌てて朝刊を開くと、天野先生が不慮の事故で急逝された記事が掲載されていました。大変おどろき、まだ現実のこととは信じられません。

天野先生は長年、静岡支部長として、ご尽力してこられました。支部を退会されてはいましたが、これからも私どもをご指導してくださることを願っております。かなわず、残念で悲しく思います。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌



第97回展出品 沈黙の譜 F130

訃報

会友 佐々木 源治氏

二〇一二年十二月三十日逝去 75歳

一九七二年 第57回二科展特選
二〇〇七年 二科会会友推挙

東京都美術館「ベストセレクション美術2013」

東京都美術館が主催する「ベストセレクション美術2013」は全国の27の主要美術団体からの推薦出品で開催される年1回の合同展です。今年で2回目になります。相互に刺激しい活性化することで公募展の発展に寄与するというのが主旨になっています。各団体から一押し作家を推薦するという形式で人選され、二科からは絵画部の川内悟、入佐美南子、粕谷正一、生方純一、彫刻部の吉野毅、鷺崎直子、上田快の7名が選ばれ出品しました。

会期初日の5月4日には吉野氏のギャラリートークがあり、最終日前日には生方が自作について説明しました。

最近の展覧会では作品への理解度を深めていただくことと、観客へのサービスをかねたコミュニケーションといった観点からギャラ

リートークが盛んですが、私自身は自作についての解説はあまり好みません。どうしても言い訳のような感じになってしまふのと、作品を見ていただいで「感じ取っていただけなければ、それまで」力不足としていました。

資料を探しています

以下の出品者目録・入選者目録を探しています。これらの目録の所在をご存知の方、複写のために貸してください。二科会事務所までご連絡をお願いいたします。

- ◇出品者目録
 - 大正3〜11年(第1〜9回)
 - 大正13〜15年(第11〜13回)
 - 昭和3・4年(第15・16回)
 - 昭和9年(第21回)
 - 昭和21年(第31回)
- ◇入選者目録
 - 昭和40年(第50回)

生方純一

「二科」アーカイブ



二科賞 監事 織田広喜

二科会の事務所に資料の写真や図録が整理、保管されたキャビネットがあります。1979年の発刊第1号からファイルされた「二科」に、当時の事情、雰囲気を知るのも興味深く、その寄稿の記事には懐かしい声が蘇ります。記録保管の施設、書庫の意味のアーカイブ。今回は「二科」第2号(1979)から、織田廣喜氏の「二科賞受賞のころ」を転載しました。

終戦後、はじめて二科展が開かれた頃、美術家や世の中の人たちは、暗やみに光明をみるようであり、激しい東京空襲からほつとした時代でした。二科展の制作はものがなく、ペンキの黒白を使ったり、キャンパスも、服の芯地で手製のキャンパスを作ったりした。上等の本物のキャンパスよりかえって面白いと思った。その

せいで今でもキャンパスの裏の方が好きになったし、そのおかげで絵の具の黒白も好きになった。

ただしかいている途中、ペンティングナイフでとるところをペンキでかくと、出刃包丁でけづったりして、批評家から絵が荒いとよくいわれたものである。細かくかくときは、手の指でこすることを覚えてはおおづきのようにはれて痛くなるのが常であった。あまり手で混ぜすぎた象の皮のようになってよく失敗した。

僕の住んでいた家の裏は、小山があったが、ジョンブリヤンと、エローオーカーと、オーレオリンの赤土の山であった。あまりに美しいのでそれをにかわで練ってかいたが、乾くと白っぽくなってしまつてしまつて失敗した。

その頃、展覧会では、百号は大作の方であった。その時の二科展には五十号三点出品したが、百号の黒装と題した白と黒の多い絵と、水辺と題した舟あそびをしている風景と二点入選して二科賞をいただいた。ほんとうに思いもかけないことで嬉しかった。感激が今でも、さまざまと思ひ出されま

（原文ママ）
〈第31回展(1946)二科賞受賞〉

事務局だより

第三十五回定時会員総会は理事長の「会員と同じ目線で」との提言により、ひな壇を作らない会場設定での開催となり、理事会で検討、承認を受けた議案がすべて報告・可決されました。

公益社団法人二科会となつて丁度1年。100回展まで後2年。事務局は100回展に向けて、諸事の合理化や節約など組織内努力に取り組みながらも、事務局メンバーは、100年間の歴史を築いた会員・会友・出品者や受賞者記録等の足跡をデータ化しようと頑張つております。人海戦術でのこの作業は、総会資料・二科会小史・二科70

年史・入選者名簿・出品目録等を照らし合わせながらの確認作業で、時には思わぬ発見に目を見張り、正確な記録を後世に残そうとの使命感に燃え、拡大鏡を手にタイムスケジュールを気にしながら励んでおります。

今年の春季展は春季二科賞に加えて春季賞が、本展では都知事賞が新しく設けられました。また、今まで30歳未満の出品者は出品料が半額でしたが、今年からは35歳未満にその対象が広がられました。

事務局は、いつも暖かいお心で接して下さる田中理事長の指揮のもと、4部門そろつて活気のある第98回二科展が迎えられるよう努力していきたいと思ひます。

埼玉 珠世

編集委員

- 委員長(総) 野村 みそら
- 委員(総) 本間 千恵子
- 〃〃 深見 まさ子
- 〃〃 金澤 英亮
- 〃〃 幡 青果
- 〃〃 宮澤 光造

平成二十五年六月 十日発行

公益社団法人 二科会

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-13
レイラット新宿 501号室
電話 03(3335)4661
FAX 03(3335)4768